

くさしぎ便り No.12

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2015年1月発行 e-mail kusasigi@nifty.com
ホームページでも発信中★☆ 「辻よし子と歩む会」で検索してください！

「くさしぎ便り」第12号をお届けします。今号はオスプレイ配備の候補地である横田基地についての学習会です。講師は横田基地騒音の原告団の一人でもあり、立川で長年、反基地運動も続けていらっしゃる加藤克子さんです。

「あきる野つぱら 学びの場 その12」 ご報告

2014年8月5日あきる野ルピアにて開催



横田基地周辺を空から見ると (図1)

横田基地の現在と 反基地運動の 課題

話題提供者 加藤克子さん

●かとうかつこさんプロフィール●
立川基地への自衛隊移駐・反対運動から始まり、現在も立川基地を監視する活動を行っている。横田基地騒音訴訟の原告として、また平和を愛し基地に反対する立場から、さまざまな要請行動にも活躍している。

横田基地と立川基地

今日は、横田基地とやはり同じように米軍の基地があった立川基地のことをお話したいと思います。まずこの写真を見てください(表紙の図1)。横田基地が福生や立川など周辺市街地にとっても近いことが、分かると思います。

「市街地のど真ん中で超危険！」と言われる沖縄の普天間基地に匹敵するほどと言っても過言ではないでしょう。

この図からはよく分からないかもしれませんが、横田基地を突っ切る形で伸びていた五日市街道が、戦後の早い時期に、滑走路が南に延長されたために大きく曲げられ、基地南側をまわる形で、作り直されています。

また、1950年代になると、戦闘機のジェット化にともない、横田基地、立川基地双方ともに対して、拡張して滑走路を延長するという計画が発表されました。その時、いち早く拡張計画を了承し、滑走路の延長を許したのが、横田基地の北に位置する瑞穂町でした。

それと対照的だったのが、立川基地の拡張予定地となった砂川町でした。砂川町では、町長、議会、町民が基地拡張反対でまとまり、砂川闘争と呼ばれる反対運動を一丸となって闘って、拡張を阻みました。そのため、立川では今でも五日市街道は旧来のまま走っています。もし拡張されていたら、当然、五日市街道も北に曲げられていたことでしょう。

このように、住民が反対したか否かによって、両基地の歩みは大きく違ったものになりました。立川基地は1969年に拡張計画中止が発表され、その後全面返還されています。片や、早々に基地拡張を受け入れた横田基地は、現在オスプレイ配備の候補基地になっている状況にあります。

横田基地の騒音訴訟の始まり

ここで、横田基地の歴史を少し振り返ります。横田基地は、戦前は陸軍立川基地の補助飛行場でしたが、戦後、米軍に接收され、先ほど話したように、拡張がくり返されて大きくなりました。初めはブルドーザーで一気には全部つぶしていくような「拡張」がなされたのですが、そのうち米軍の指示で日本政府が土地収用を行う形に変わっていきました。

かつて、滑走路の南の延長上に「堀向」という町があり、都営住宅があったり賑やかな町だったのですが、ジェット機の衝撃波がとても激しく、ある時、お風呂屋さんのガラス窓が衝撃波で全部割れて、けが人が出る事件が起こります。そこでその地域の移転問題が起こり、今は森のようになっています。

ところがそこに住み続けて、飛行機の離発着や騒音を記録し続けた人たちがいました。彼らが70年代半ばから横田基地の騒音訴訟を始めます。中心だったのは福本龍蔵さんという人で、戦後は都の職員をされていたのですが、戦争中は中国で憲兵をしていたという経歴の持ち主でした。彼は南京で戦犯法廷に掛けられ、引き回しにありますが、「あの人はいい人だった」という証言者が出て助かったそうです。立ち退き問題が起き、町がどんどんなくなっていく中で、裁判を起こそうとされたのです。

こうした経緯から、当初、原告は、基地南側の人が多かったのですが、最近では北側の瑞穂町の人も多くなっています。現在裁判は第9次訴訟となっています。基地訴訟は横田の他に、厚木、岩国、小松、沖縄は嘉手納、普天間があり全国に広がっています。騒音被害は立証可能で、被害が認定されれば国として

て、木を植えたり草刈をしたり、皆で手入れをしてきました。

10年も経ってから、市が暫定的に公園用地として借りることになり、今は市と私たちで管理を分担しています。市が全面的に管理すると、手がかからないコンクリートの公園に変えるであろうことは目に見えていましたから、私たちは「管理権は私たちにある」と主張しております。そして、秋まつりを開催したり、反基地駅伝大会の会場にしたり、いろんな集いをその「ひろば」で開いています。

砂川闘争があったからこそ、自主耕作地が生まれ、木を植える広場もできたと思うのです。今、砂川で町づくり計画が持ち上がっていますが、もともとは砂川の人たちが立案してきた計画です。が、市に吸い上げられる過程で、残念ながら様々なものが抜け落ちてしまいました。たとえば平和記念館をつくる計画があったのですが消えてしまい、砂川公民館の一室に展示があるだけとなってしまいました。

基地の存在をどう考えるか

私は、戦争中の疎開時期を除いて、立川で生まれ暮らしてきました。だから「井の中の蛙」かという、そうでもありません。基地に関わっているために、世界の人たちを迎えてとても面白い経験をしています。

90年代初頭に自衛隊が初めてカンボジアに海外派兵された折、私も当地に行って監視活動を行いました。その時知り合ったカンボジア人女性を、翌年三多摩に招いて横田、立川の両基地を案内したのです。すると、彼女からは「なぜ自衛隊（自国の軍隊）に反対するのか」と言われました。私は急いで英語でリーフレットを作りました。そして彼女に、



反基地駅伝大会の記念写真(木の繁る「ひろば」で)

どこの軍隊であろうと軍隊によって平和を創ることはできないし、軍隊があるから人を殺し人から殺される戦争をやることになること、自衛隊は憲法に違反する存在であると言いました。しかし彼女は「それは理想主義だ」と言うわけです。

また、パレスチナの PLO の代表本部が東京にあった時に、女性たちを横田基地に案内したのですが、私が車から降りて基地に近づく、と、撃たれるのではないかと彼女たちは真っ青になるのです。基地はそういう存在でもあるのだと学びました。

また同時多発テロの後にアメリカで結成された「ピースフル・トゥモロー」という「報復はテロに対する解答ではない」という主張を持つ団体のメンバーが、日本に来た時のこと。ペンタゴンで兄を失った青年を、横田基地に案内すると、「こんな市街地に基地があるなんてアメリカでは考えられない」と言いました。それを聞いて、横田はそれほど市街地ではないと思っていた私は、認識を改めさせられました。

中国で私の1冊目の本の翻訳をしてくれた人が、何人かの友人とともに来日した時も、彼らは「他国の軍隊が、自分の国にあるのは考えられない」と驚いていました。かつては

日本の軍隊がいた中国ですが、今は自国の独立に関して大変シビアな感覚と歴史認識を持っているのだと感じました。

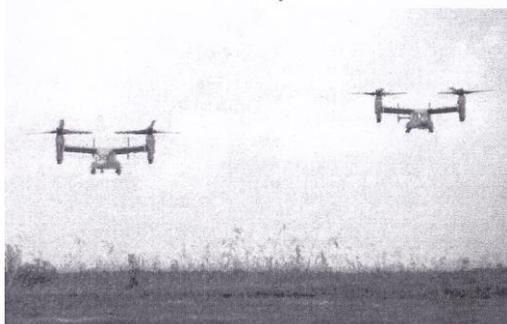
基地の存在というのは、つい慣れてしましますが、いつも新鮮な感覚を、あの人はどう見るのか、どう考えるのかを見たり聞いたりすることで、保つことが大切だと考えるようになりました。

オスプレイ飛来をどう止める？

オスプレイが7月19日、21日に横田基地に飛来したことに対して、19日には多くの人が集まり、反対行動が実行されました。

7月30日になってからですが、「横田基地周辺市町村対策連絡会」の5市1町（福生、羽村、武蔵村山、昭島、立川、瑞穂）、つまり横田基地に土地を持っている自治体が、オスプレイ配備検討の撤回を求める要請を政府に行いました。

私たちが「事態に慣れないで、頑張ってもらいたい」と基地対策連絡会に要請してきました。そもそも、基地問題に対しての自治体の姿勢はというと、安全保障については国の専権事項で自治体は何も言えない。ただ、住民の安全という点に絞って発言していくというものです。



横田基地から飛び立つ2機のオスプレイ

(2014年7月21日13時56分)

私たちは7月21日のオスプレイ飛来時に撮影した写真を示し、まずヘリモードと飛行モードの転換が約束通り基地内で行われていないことを知らせました。この転換時が一番不安定で危ないので、日米合同委員会で「基地内で行う」ことになっているのですが、守られていなかったわけです。

それと、オスプレイ2機が至近で離陸していたことも写真で伝えました。至近距離だと、先行機の気流に巻き込まれて墜落の危険が高いのです。そしてこの2点は、米軍に日米間の約束を守らせてほしいと要望しました。

政府は「日米安保は国民の安全のためだ」と言っていますね。この建前論に自治体が巻き込まれていく傾向が、最近強くなっています。戦闘機を操縦する人や空襲に曝される人たちの安全を視野に入れ、具体的に話さないと、政府の抽象論に負けてしまうと思います。

横田基地の騒音訴訟は①横田基地を離発着する航空機の夜間～早朝の飛行差し止め、②横田基地を原因とする様々な基地被害からの救済（過去から将来にわたる基地被害に対する損害賠償）を訴えて現在9次訴訟が闘われています。歴史的経緯から、原告が二つに分かれています。このところ、オスプレイの問題が出てきて一致して行動することも出てきています。

また、これはお願いですが、コンター75内に住んでいる人には、ぜひ原告に加わっていただきたいです。また、コンター75外の方でも、裁判を支え、横田基地被害をなくすために「横田・基地被害をなくす会」に入って、ともに活動していただきたいと思います。

「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。2011年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

2011年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どういう市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- ①市民といっしょに市政を考える。
- ②市の現状と問題点を市民に情報発信する。
- ③開発優先ではなく、環境優先(放射能への危機感を持つ)。
- ④マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者になりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

(^_^)/ 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? ひとりの市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・ e-mail kusasigi@nifty.com

・ 〒190-0154 あきる野市高尾 182-1

TEL&Fax 042-596-4569(佐橋)



☆★くさしぎニュース★☆

「性同一性障害」に関する要望が実現しました!

昨年9月にくさしぎの会で、「市立学校の教職員、特に養護教諭に性同一性障害の当事者の話を聞く場を設けてください」という要望書を教育委員会に出しました。その要望の一部が叶って、先日当事者のIさんが市内の小学校を訪ね、校長と養護教諭3名に自らの体験を交えて性同一性障害について話をしました。

Iさんからは、小学校に入学するときに、なんで自分は赤いランドセルなのかと強い違和感を持ったこと。思春期に入り自分の体が大人への変化していく頃が特に辛かったこと。性的マイノリティの割合は30人に1人といわれ、学校にもそうした子どもたちが潜在的にいることなどが話されました。

また、最近では芸能人が性同一性障害をカムアウトする等して社会的に知られるようになってきたが、ニュースとして知っていることと、身近にいる「性同一性障害」の人を受け入れることとは別。その意味からも当事者の話を直接聞くことが大切であると、改めて確認しました。(T・Y)

New!